



# ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士 不動産コンサルタント 秋山英樹

128号

発行日2018年6月

## 「大阪府北部地震」

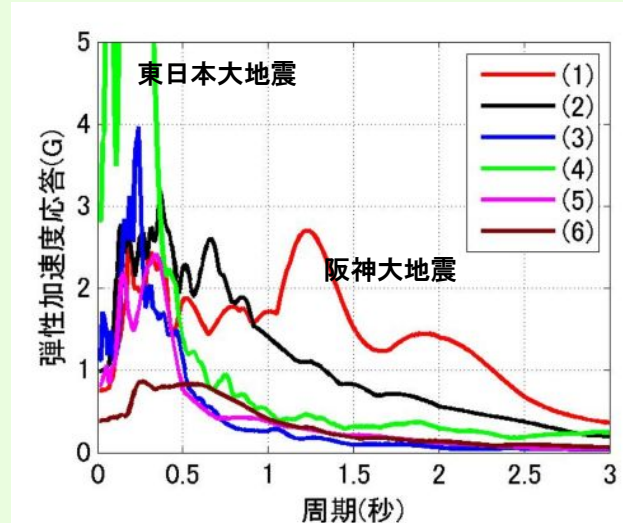
6月18日に震度6弱を観測した地震が大阪府北部に起きました。関東地方でも千葉県を中心に最近地震が頻発して心配です。

大阪の地震が起きてから、前日に地震雲を見たという報告が多くネット上に書かれていますが、気象庁は地震雲との因果関係は否定しています。

地震時の地殻が動くとき地殻同士の摩擦で電磁波が発生することはよく知られています。それがFM電波を乱したり、地震雲ができたり、動物に異変を感じさせるのでしょうか。どの程度正確な因果関係になるのかは不明です。

今回の大阪の地震では震度6弱という中地震ですが建物被害などがわずかに発生しています。被害程度が少ないのは地震の揺れの特徴が東日本大地震と似ており、阪神大地震とは違うからなのです。

地震波のデータを見ると、周期が0.5秒以下のものが多いのが分かります。



大阪府北部地震の周期がもう少し長かったら建物被害はもっと大きかったと想像されます。

関東に震度6強～7の大地震が30年以内に起きる確率は東京で46%となっています（都庁発表）。東京の直下型地震が起きた場合、今回の大阪の地震と同じ震度6弱でも古いビルの倒壊はありえると思います。

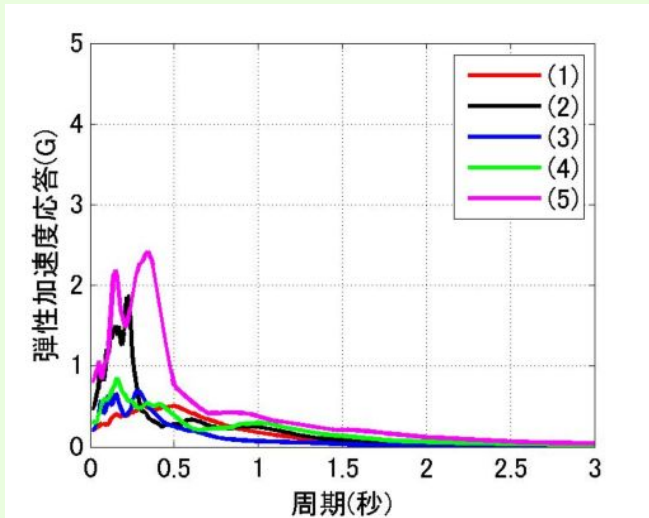
以前銀座の古いビルの建ち並んでいる地域のビルの調査をしたことがあります。表から見たらきれいに化粧されたビルですが、裏から見たらコンクリートは亀裂も多く壁はコンクリートブロックが雑に積まれている状況です。屋上から周りを見渡せば同じようなビルがほとんどです。古くてビル同士がほとんどくっついて建てられていることと、テナントの立ち退き料が膨大なため建て替えは不可能といってよい状況です。

下町の木造密集地帯も同様で、さらに道幅が1～2mと狭く建て替えが困難なのです。

銀座にしても下町にしても建物毎に考えるのではなく、地域という面で建て替えを含んだ開発を行わない限り地震災害の危険度は高くなるばかりなのだというのが実情です。

また、いつ起きてもおかしくないといわれている遠く離れた南海トラフで地震が起きれば、太平洋側に津波が押し寄せ、四国では10～20m、東京でも2～3mの津波が想定されています。

以上を考えれば、いつ地震がきてもよい心がけが各自必要な時代なのだと思います。



地震の揺れには、大きく分けて周期の短い「ガタガタの揺れ」、中くらいの周期の「ユサユサの揺れ」、長い周期の「ユラユラの揺れ」に分けられます。建物にとって一番怖いのが「ユサユサの揺れ」なのです。周期では1～1.5秒の揺れ（1～1.5秒で行って戻る揺れ）がキラーパルスといわれ阪神大地震で起きました。東日本大地震では、地震の規模は過去最大級でしたが、建物被害は地震規模にしては少なかったのは地震の揺れが周期の短い「ガタガタ」だったからなのです。